

AnyWireASLINK  
B2P8-E01用 Edgexcross データコレクタ  
ユーザーズマニュアル

1.0 版 2021/06/03

AnyWireASLINK システム

UMA-20129AB

## 注意事項

### ●本書に対するご注意

1. 本書は、最終ユーザーまでお届けいただきますようお願いいたします。
2. 本製品の操作は、本書をよく読んで内容を理解した後に行ってください。
3. 本書は、本製品に含まれる機能詳細を説明するものであり、お客様の特定目的に適合することを保証するものではありません。
4. 本書の一部または全部を無断で転載、複製することはお断りします。
5. 本書の内容については将来予告なしに変更する場合があります。

### ●安全上のご注意（ご使用前に必ずお読みください）

本製品のご使用に際しては、本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は、本製品に関するもののみについて記載したものです。

システムとしての安全上のご注意に関しては、CPU ユニットなどコントローラ側のユーザーズマニュアルを参照してください。

この「安全上のご注意」では、安全注意事項のランクを「 警告」、「 注意」として区分してあります。



取り扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。



取り扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽症を受ける可能性が想定されるおよび物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、

 注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要ときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザーまでお届けいただくようお願いいたします。

## 【製品の適応について】



- 本ソフトウェアをご使用になる場合は、万一製品に故障、不具合が発生しても重大な事故に至らない用途であり、またフェールセーフ、バックアップ機能は弊社製品の外部でシステム構成されていることを条件とさせていただきます。
- AnyWire システムは、一般工業等の用途を対象とした汎用品として設計されており、また安全性確保を目的とした制御機能を有するものではありません。  
従いまして、医療機器、原子力等発電所、鉄道、航空、安全用機器等、高い安全性が必要とされる用途については適応を除外させていただきます。
- 当社は、本ソフトウェアおよび本ソフトウェアを使用した製品の品質、性能、安全にかかわる一切の責任（債務不履行責任、瑕疵担保責任、品質保証責任、不法行為責任、製造物責任を含むそれらに限定されない）を負わないものとさせていただきます。

## 【設計上の注意事項】

### 注意

- AnyWire のシステムは高い耐ノイズ性を持っていますが、伝送ラインや入出力ケーブルは、高圧線や動力線から離してください。100mm 以上を目安として離してください。誤動作の原因になります。
- 安全のための非常停止回路やインタロック回路などは、AnyWire システム以外の外部回路に組み込んでください。
- 各種設定を反映中、本製品を搭載した産業用 PC の強制電源 OFF が実施されるような操作を行わないでください。  
反映中に本製品を搭載した産業用 PC の強制電源 OFF が実施されるような操作を行うと、データが不定となり、再設定・再反映が必要となります。また、本製品の誤動作の原因となります。

## 【取付け上の注意事項】

### 警告

- AnyWire 製品は、ユーザーズマニュアルに記載の一般仕様の環境で使用してください。  
一般仕様の範囲以外の環境で使用すると、感電、火災、誤動作、製品の損傷あるいは劣化の原因になります。
- それぞれの機器は正しく装着してください。誤動作、故障、落下の原因になります。  
DIN レールに装着する場合は、必ず固定フック側が上になるような姿勢で取り付けてください。  
可動フック側を上にして支えると、振動やケーブル重量等で脱落する可能性があります。  
確実に固定するため、DIN レールストッパの併用を強くお勧めします。  
ねじ固定する場合は、規定トルク範囲内で行ってください。  
締付けが緩い、また締付過ぎは機器の破損や脱落、誤動作の原因になります。
- 機器の着脱は、必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。  
電流の回り込み等による損傷や誤動作の原因となります。
- 導電部分や電子部品には直接触らないでください。誤動作、故障の原因になります。

## 【配線上の注意事項】



- 端子ねじの締付けは、規定トルク範囲内で行ってください。端子ねじの締付けがゆるいと、短絡、火災、誤動作の原因になります。端子ねじを締め過ぎると、ねじやユニットの破損による落下、短絡、誤動作の原因になります。
- ユニット内に、切粉や配線クズなどの異物が入らないように注意してください。火災、故障、誤動作の原因になります。
- ユニットは、配線時にユニット内へ配線くずなどの異物が混入するのを防止するため、ユニット上部に混入防止ラベルを貼り付けています。配線作業中は、本ラベルをはがさないでください。システム運転時は、放熱のために本ラベルを必ずはがしてください。
- 誤配線は機器に損傷を与えることがあります。また、コネクタや電線がはずれないように、ケーブル長や配置に注意してください。
- 端子台により線を接続する場合、はんだ処理をしないでください。接触不良の原因になります。
- 電源ラインの配線長が長い場合、電圧降下により遠隔のスレーブユニットの電源電圧が不足することがありますので、外部供給電源を接続して規定の電圧を確保してください。
- AnyWire システム全体の配線や接続が完了しない状態で、DC24V 電源を投入しないでください。
- AnyWire システム機器には、DC24V 安定化直流電源を使用してください。
- 制御線や伝送ケーブルは、主回路や動力線と束線したり、近接したりしないでください。ノイズにより、誤動作の原因になります。
- ユニットに接続する電線やケーブルは、必ずダクトに納めるか、またはクランプによる固定処理を行ってください。ケーブルをダクトに納めなかったり、クランプによる固定処理をしていないと、ケーブルのふらつきや移動、不注意の引っ張りなどによるユニットやケーブルの破損、ケーブルの接続不良による誤動作の原因となります。
- ユニットに接続されたケーブルを取りはずすときは、ケーブル部分を手に持って引っ張らないでください。コネクタ付きのケーブルは、ユニットの接続部分のコネクタを手で持って取りはずしてください。端子台接続のケーブルは、端子台端子ねじを緩めてから取りはずしてください。ユニットに接続された状態でケーブルを引っ張ると、誤動作またはユニットやケーブルの破損の原因となります。

## 【立上げ・保守時の注意事項】

### 警告

- 通電中に端子に触れないでください。感電または誤動作の原因になります。
- 清掃、端子台上のねじ、ユニット取付けねじの増し締めは、必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。全相遮断しないと、感電の恐れがあります。ねじの締付けがゆるいと、短絡誤動作の原因になります。ねじを締め過ぎると、ねじやユニットの破損による落下、短絡、誤動作の原因になります。

### 注意

- 各ユニットの分解、改造はしないでください。故障、誤動作、ケガ、火災の原因になります。
- ユニットの着脱は、必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。全相遮断しないと、ユニットの故障や誤動作の原因になります。
- ユニットに触れる前には必ず接地された金属に触れて人体などに帯電している静電気を放電してください。静電気を放電しないとユニットの故障や誤動作の原因になります。

## 【廃棄時の注意事項】

### 注意

- 製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱ってください。

## 目次

---

1. AnyWireASLINK B2P8-E01用 Edgecross データコレクタとは	1-1
2. 仕様	2-1
2.1 機能仕様	2-1
2.2 動作仕様	2-2
2.2.1. 動作状態	2-2
2.2.2. エラー発生時の動作	2-2
2.3 アクセス可能デバイス（ロケーション）・範囲	2-2
3. 運転までの手順	3-1
4. 機能	4-1
4.1 収集機能	4-1
4.2 リード機能	4-1
4.3 ライト機能	4-1
5. パラメータ設定	5-1
5.1 通信パラメータ	5-2
5.2 収集パラメータ	5-2
5.3 ロケーションパラメータ	5-2
6. トラブルシューティング	6-1
6.1 エラー内容の確認方法	6-1
6.1.1. エラーの種別	6-1
6.2 現象別トラブルシューティング	6-2
6.2.1. データ収集に関するトラブルシューティング	6-2
7. 変更履歴	7-1

---

## 1. AnyWireASLINK B2P8-E01用 Edgecross データコレクタとは

---

データコレクタは FA-IT オープンプラットフォーム (Edgecross) のエッジコンピューティング領域で生産現場機器からのデータ収集やデータ読み書きを H/W に依存せずを実現する S/W コンポーネントです。データコレクタは、生産現場に依存する機器・装置・ラインやネットワークの違いを吸収し、生産現場のデータをプラットフォームと受け渡しを行います。

プラットフォームとデータコレクタ間は、オープン仕様に基づいてインターフェースが規定されているためプラットフォームはデータコレクタを意識することなく開発することが可能です。

また、目的に応じて、エッジアプリケーションとデータコレクタを組み合わせることが可能です。

本製品は、産業用パソコンから直接 AnyWireASLINK へ接続できる B2P8-E01 のデータコレクタであり、産業用パソコンで AnyWireASLINK の入力・出力状態を収集するアプリケーションを開発することを可能にします。

## 2. 仕様

### 2.1. 機能仕様

項目	仕様	
接続可能経路	PCI-Express	
データコレクタ対応種別	収集機能 リード機能 ライト機能	
収集機能	最大設定可能数	1 設定
	1 設定あたりの最大データ数	256
	1 設定あたりの最大収集サイズ	1024 ワード=4 ワード × 256
	全設定合計の最大収集サイズ	1024 ワード=1024 ワード × 1 設定
	収集間隔	100ms ~ 900ms (100ms 単位) 1 秒 ~ 3600 秒 (秒単位)
	データ型※	BOOL INT UINT DINT UDINT LINT ULINT
アクセス可能デバイス (ロケーション)	入力ビット 出力ビット ステータス詳細 センシングレベル エラーステータス エラー発生 ID	
リード機能 / ライト機能	最大設定可能数	1 設定
	1 設定あたりの最大データ数	256
	1 設定あたりの最大収集サイズ	1024 ワード=4 ワード × 256
	全設定合計の最大収集サイズ	1024 ワード=1024 ワード × 1 設定
	データ型※	BOOL INT UINT DINT UDINT LINT ULINT
	アクセス可能デバイス (ロケーション)	入力ビット 出力ビット ステータス詳細 センシングレベル エラーステータス エラー発生 ID

※データ型に対し実際に収集 / リード / ライトできる値は、使用しているスレーブユニットの点数に依存します。  
例えば 4 点入力スレーブユニットの場合は、ULINT を指定しても 4bit で表現されるデータのみ取得となります。



## 2.2. 動作仕様

### 2.2.1. 動作状態

AnyWireASLINK データコレクタはアクセス先ごとに独立した状態を持ち、その状態はアクセス先との通信状態によって決まります。アクセス先との通信状態は基本ソフトウェアにて確認できます。

データコレクタの状態	説明	アクセス先との通信状態
アクセス先に対してデータの読み書きを行っている状態	アクセス先に正常に接続している状態 (接続処理に成功した場合に遷移します)	接続
アクセス先に対してデータの読み込みを行っていない状態(再接続実施中)	アクセス先との接続を切断している状態 (接続処理に失敗した場合に遷移します)	切断

### 2.2.2. エラー発生時の動作

AnyWireASLINK データコレクタがエラーを検出した場合、発生したエラーの種類により下記の動作を行います。

エラーの種類	基本ソフトウェアに通知するエラー種別	データコレクタの状態	データコレクタの動作
データコレクタ動作停止エラー	中度エラー	インストール先の産業用パソコンのハードディスク異常やリソースの確保失敗により、製品仕様通りの動作を保証できない状態	<ul style="list-style-type: none"><li>データ収集中にエラーが発生した場合は、収集中のデータは破棄します。</li><li>収集機能およびリード機能/ライト機能を停止し、エッジコンピューティング基本ソフトウェアへエラーを通知します。</li></ul>
データコレクタ動作続行エラー	軽度エラー	アクセス先との接続を切断している状態 (接続処理に失敗した場合に遷移します)	<ul style="list-style-type: none"><li>データ収集中にエラーが発生した場合は収集中のデータは破棄します。</li><li>エッジコンピューティング基本ソフトウェアへエラーを通知したあとも、収集機能およびリード機能/ライト機能は継続して行います。</li></ul>

## 2.3. アクセス可能デバイス (ロケーション) ・ 範囲

アクセス可能デバイス (ロケーション) およびアクセス可能範囲を示します。

デバイス名 (デバイス)	範囲	リード機能 / ライト機能
ビット入力	512 ~ 767	リード
ビット出力	0 ~ 255	リード / ライト
ステータス詳細	0 ~ 255、512 ~ 767	リード
センシングレベル	0 ~ 255、512 ~ 767	リード
エラーステータス	—	リード
エラー発生 ID	—	リード

---

### 3. 運転までの手順

---

AnyWireASLINK B2P8-E01用 Edgecross データコレクタの立上げから運転までの手順を示します。

1. 機器の設定・配線および B2P8-E01 との接続を行います。AnyWireASLINK の接続方法は、B2P8-E01 のマニュアルを参照してください。
2. データコレクタのインストールを行います。  
ダウンロードした「setup.exe」を実行し、操作を進めてください。
3. データコレクタのパラメータを設定します。  
→5. パラメータ設定（5-1 ページ以降）を参照してください。

---

## 4. 機能

---

### 4.1. 収集機能

---

設定された収集周期の間隔でデータを収集する機能です。

収集方法	概要
定周期収集	<p>あらかじめ決められた周期に従い、生産現場の装置・機器・ラインから時系列データを B2P8-E01 より収集し、Edgecross にデータを配信します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>基本ソフトウェアの動作状態が RUN 状態に遷移したときからユーザが設定した時間だけ経過したあとをデータ取得の起点とし、以降は間隔ごとの定周期でデータの読み出しを行います。</li><li>本製品が動作している産業用パソコンの時刻変更の影響を受けずに一定間隔で動作します。</li><li>収集したデータに付加する収集時刻は、データコレクタが B2P8-E01 に対して読み出し要求を送信した時刻とします。</li></ul>

### 4.2. リード機能

---

B2P8-E01 より基本ソフトウェアからの読み出し要求に応じたデータ読み出しを行います。

### 4.3. ライト機能

---

B2P8-E01 に対し基本ソフトウェアからの書き込み要求に応じたデータ書き込みを行います。

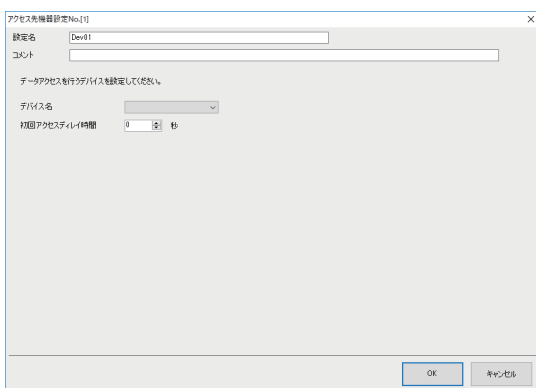
## 5. パラメータ設定

Edgecross 基本ソフトウェアで、AnyWireASLINK B2P8-E01用 Edgecross データコレクタのパラメータ設定を行います。各種パラメータの設定画面の表示は、Edgecross 基本ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

### 5.1. 通信パラメータ

AnyWireASLINK データコレクタの機器への接続に関する設定を行います。

#### <画面表示>



#### <表示内容>

項目	内容
デバイス名	データアクセスを行う B2P8-E01 を設定します
初回アクセスディレイ時間	アクセス先デバイスが初期化処理を終了し、データ収集が可能になるまでに待つ時間を設定します

## 5.2. 収集パラメータ

AnyWireASLINK B2P8-E01用 Edgecross データコレクタの収集に関する設定を行います。

<画面表示>

データ収集設定

データ収集設定

収集対象とするアクセス先機器を選択後、収集データ、収集オプションを設定してください。

アクセス先機器: Dev01

開発元: 株式会社エニワイヤ

データコレクタ名: AnyWireASLINK B2P8-E01データコレクタ

データコレクタバージョン: 1

収集データ [収集オプション]

収集パラメータを設定してください。

収集間隔: 1 00 ミリ秒 (100-900)

<表示内容>

項目	内容
収集間隔	収集間隔の時間を設定します [ 入力可能範囲 ] 単位指定が「秒」の場合 : 1 ~ 3600 単位指定が「ミリ秒」の場合 : 1 ~ 9

## 5.3. ロケーションパラメータ

AnyWireASLINK B2P8-E01用 Edgecross データコレクタのロケーションパラメータ設定を行います。  
対象データ、スレーブユニット ID、データ型を選択します。

<画面表示>

ロケーション設定

ロケーションパラメータを設定してください。

(1)ビット入力      スレーブユニットID      512

(2)ビット出力      データ型      BOOL

(3)ステータス詳細

(4)センシングレベル

(5)エラーステータス

(6)エラー発生ID

OK      キャンセル

ロケーション設定

ロケーションパラメータを設定してください。

(1)ビット入力

(2)ビット出力      スレーブユニットID      544

(3)ステータス詳細      データ型      UINT

(4)センシングレベル

(5)エラーステータス

(6)エラー発生ID

OK      キャンセル

ロケーション設定

ロケーションパラメータを設定してください。

(1)ビット入力

(2)ビット出力

(3)ステータス詳細      スレーブユニットID      512

(4)センシングレベル      データ型      UINT

(5)エラーステータス

(6)エラー発生ID

OK      キャンセル

ロケーション設定

ロケーションパラメータを設定してください。

(1)ビット入力

(2)ビット出力

(3)ステータス詳細

(4)センシングレベル      スレーブユニットID      512

(5)エラーステータス      データ型      UINT

(6)エラー発生ID

OK      キャンセル

ロケーション設定

ロケーションパラメータを設定してください。

(1)ビット入力

(2)ビット出力

(3)ステータス詳細

(4)センシングレベル

(5)エラーステータス      データ型      UDINT

(6)エラー発生ID

OK      キャンセル

ロケーション設定

ロケーションパラメータを設定してください。

(1)ビット入力

(2)ビット出力

(3)ステータス詳細

(4)センシングレベル

(5)エラーステータス

(6)エラー発生ID      データ型      UINT

OK      キャンセル

<表示内容>

項目	内容
ビット入力	「ビット入力」を選択。スレーブユニット ID、データ型を指定
ビット出力	「ビット出力」を選択。スレーブユニット ID、データ型を指定
ステータス詳細	「ステータス詳細」を選択。スレーブユニット ID、データ型を指定
センシングレベル	「センシングレベル」を選択。スレーブユニット ID、データ型を指定
エラーステータス	「エラーステータス」を選択。データ型は「UDINT」固定
エラー発生 ID	「エラー発生 ID」を選択。データ型は「UINT」固定

■スレーブユニット ID

スレーブユニットに設定されているアドレスに入出力の意味をもたせたものです。

スレーブユニットの種別	アドレス	ID
出力	0 ~ 255	0 ~ 255
入力または入出力混合	0 ~ 255	512 ~ 767

例：アドレス 10 に設定されている入力スレーブユニットの ID は 522 になります。

---

## 6. トラブルシューティング

---

AnyWireASLINK B2P8-E01用 Edgecross データコレクタを使用する場合に発生するエラーの内容、およびトラブルシューティングについて説明します。

### 6.1. エラー内容の確認方法

---

エラー内容の確認には、下記の方法があります。

確認方法	詳細
リアルタイムフローデザイナー	リアルタイムフローデザイナーの“リアルタイムフローマネージャ診断”画面によりエラーコードを確認できます。

#### 6.1.1. エラーの種別

---

AnyWireASLINK B2P8-E01用 Edgecross データコレクタのエラー種別には、中度エラーと軽度エラーの2種類が存在します。詳しくは、「2.2.2 エラー発生時の動作」を参照してください。

## 6.2. 現象別トラブルシューティング

AnyWireASLINK B2P8-E01用 Edgecross データコレクタの機能が正しく動作しない場合、下記の項目から該当するものを確認してトラブルシューティングを行ってください。

### 6.2.1. データ収集に関するトラブルシューティング

◇Edgecross のエラー情報にてイベントコード 5021 が検出された場合

確認項目	処置内容
B2P8-E01 を PC 側にて正しく認識できているか確認する	デバイスマネージャーにて B2P8-E01 が正しく認識されているか確認してください。認識できていない場合は、B2P8-E01 の Windows ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
リアルタイムフローマネージャパラメータ設定とデータコレクタバージョンを確認する	リアルタイムフローマネージャパラメータ設定時のデータコレクタバージョンと現在格納されているデータコレクタバージョンが不一致の場合、正しく動作しません。 リアルタイムフローマネージャパラメータを再度設定してください。 PC 側で B2P8-E01 が正しく認識されていて、リアルタイムフローマネージャパラメータ設定も正しい場合、データコレクタサービスのファイルが破損している可能性があります。 データコレクタを再インストールしてください。

◇B2P8-E01 の LED 状態を確認「A」LED が点灯または点滅している場合

①遅い点滅状態（1 秒周期）：DP-DN 短絡エラー

確認項目	処置内容
伝送線（DP,DN）が短絡していないか確認する	伝送線（DP,DN）に短絡がないか確認してください。 リンクコネクタ圧着時に、ピンアサインを間違えていないかなど注意してください。
端子台の配線を確認する	本機、またはスレーブユニットの端子台配線で伝送線（DP,DN）の接触や誤配線がないか確認してください。
AnyWireASLINK システムの消費電流が仕様を満たしているか確認する	全スレーブユニットの消費電流が本機の伝送線供給電流値以内となるよう、ケーブル（線径、総延長）、ユニット（種類、接続数）を修正してください。

②早い点滅状態（0.2 秒周期）：伝送電源低下エラー

確認項目	処置内容
DC24V 外部供給電源の電源電圧を確認する	DC24V 外部供給電源の電源電圧が、定格（DC21.6 ~ 27.6V）となるように調整してください。（推奨電圧は DC26.4V です）
電源線（24V,0V）が短絡していないか確認する	電源線（24V,0V）に断線、短絡がないか確認してください。 リンクコネクタ圧着時に、ピンアサインを間違えていないかなど注意してください。
端子台の配線を確認する	本機やスレーブユニットの端子台に DC24V 外部供給電源が正しく配線されていることを確認してください。配線の短絡や誤配線、または締め付け不足にも注意してください。

③点灯状態：DP-DN（伝送線）断線エラー

確認項目	処置内容
伝送線（DP、DN）が断線していないか確認する	接続部分、線間導通を確認してください。
端子台の配線を確認する	誤接続が無いか確認してください。
アドレス自動認識を行う	導通初期時は ALM が点灯します。 アドレス自動認識を行ってください。



スレーブユニットの LED 状態を確認

(1) 「LINK」 が点灯または消灯している場合

①点灯状態：伝送波形異常

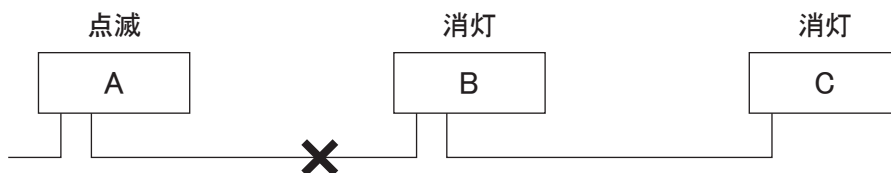
確認項目	処置内容
スレーブユニットに伝送信号が届いているか確認する	正常な場合、伝送ライン（DP-DN）間をテスターの DC モードで測定すると、約 17V ～ 18V の電圧が観測されます。 電源電圧と同じだったりした場合は、伝送ラインの誤配線がないかどうか確認してください。 また本機に異常がないかどうか確認してください。

②消灯状態：伝送信号断線異常

確認項目	処置内容
スレーブユニットに伝送信号が届いているか確認する	伝送ライン（DP-DN）接続部にゆるみなど接触不良がないかどうか確認してください。 本機に電源供給されているかどうか確認してください。 伝送ライン（DP-DN）端子に伝送信号が届いているかどうか確認してください。 正常な場合、テスターの DC モードで約17V～18Vの電圧が観測されます。

伝送ラインの断線等では、スレーブユニットの「LINK」表示の違いによってその位置を特定する事も可能です。

例)



障害箇所

スレーブユニット A までは「LINK」点滅により伝送信号が受信できている、スレーブユニット B 以降は「LINK」消灯なので伝送信号が受信できていない、よって A と B の間に断線がある、と判断する

(2) 「ALM」 が点灯または点滅している場合

①点灯状態：スレーブユニットステータス異常

確認項目	処置内容
スレーブユニットステータスの詳細を確認する	該当する障害を取り除いてください。

②点滅状態：伝送信号レベル低下

確認項目	処置内容
本機の供給電圧が許容電圧範囲にあるか確認する	許容範囲内に調整してください。
伝送ライン総延長、許容供給電流に対し、接続ユニット、負荷容量が適切かどうか確認する	伝送ライン長に応じた許容供給電流の範囲内となるよう接続数・負荷消費量を調整、また系統数を検討してください。

③「LINK/ALM」 交互点滅状態：ID（アドレス）の重複、または ID 未設定

確認項目	処置内容
スレーブユニットのアドレス重複、設定の有無を確認する	再設定により重複ミス、未設定状態を解消してください。

④「ALM」 が点灯、「LINK」「I/O」 が点滅状態：2 線式センサ出力線断線


確認項目	処置内容
スレーブユニットに接続している 2 線式センサのケーブルを確認する	センサに至る配線上の障害を取り除いてください。 もしくはセンサを交換してください。

---

## 8. 変更履歴

---

バージョン	日付	変更内容
初版	2019/07/09	
1.0	2021/06/03	EDGECROSS ロゴ追加、サポートダイヤル受付時間更新

 株式会社エニワイヤ

本 社 : 〒617-8550 京都府長岡京市馬場団所 1  
TEL: 075-956-1611(代) / FAX: 075-956-1613

営業所 : 西日本営業所、東日本営業所、中部営業所、九州営業所  
<http://www.anywire.jp/>

---

お問い合わせ窓口:

- テクニカル サポートダイヤル  
受付時間 9:00~17:00(土日祝、当社休日を除く)

**075-952-8077**

- メールでのお問い合わせ [info@anywire.jp](mailto:info@anywire.jp)